

きらり 通信

平成27年12月14日(月)発行 第23号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>



須賀川市のサポートブック説明会

教頭 小野美花

きらり通信19号でサポートブックの活用について書かせていただき、その中で須賀川市は2015年に発行予定のこのことをお伝えしたところです。そして今年度、予定通り須賀川市のサポートブックが発行されました。

サポートブックは、支援を必要とする人、家族がいつでも、どこでも支援を受けられ安心して社会生活を送ることができるようにするための支援ツールであり、必要とされる方によりよく活用されることが求められています。そこで、11月24日に本校を会場に、より多くの方に活用していただけるよう3名の講師をお迎えし、サポートブックの説明会が行われました。サポートブックの概要について須賀川市健康福祉部社会福祉課障がい福祉課主査の三本木護氏から説明があった後、具体的な活用について、社会福祉法人桜が丘学園相談支援アドバイザーの吉田清美氏と社会福祉法人福音会相談事業所 Almond 相談支援専門員の高橋幸子氏からお話を頂きました。

当日は、須賀川市内の中学校の保護者、養護学校教員、本校高等部の保護者の方が参加され、新しいサポートブックを手に熱心にお話を聞いていました。ほとんどの方が今回初めてサポートブックの存在や使い方を知ったとのことでした。書き方や使い方について講師の方から直接アドバイスや説明をいただきつつ、保護者からの質問に丁寧に答えてくださり、また、保護者同士の話し合いも活発に行われていました。講師の説明の中に「サポートブックを通して今までを振り返り、お子さんの成長を知るとともに、整理することができる。」とあるように、サポートブックは、支援ツールであるとともに子どもの成長の記録でもあると言えます。

須賀川市のサポートブックは、まだ生まれただけです。三本木氏が、「実際に活用して現場の意見を頂きながら改善していきたい。」と話されていたように、学校を含めてそれぞれの関係機関が意識して活用していくことでよりよい支援につながっていくと思います。

サポートブックは、市の障がい福祉課や保健師を通して配付しています。



ICT機器の活用について ~アプリケーション紹介~

今回は、「読み」「書き」に困難を抱える児童生徒に有効なアプリケーションをふたつ紹介します。(文責:渡邊)

タッチ&リード



紙媒体の情報を写真にとるだけで、すぐに読み上げさせることができるiPad用のアプリケーションです。書く方も「手書き」「テキスト入力」に対応しています。テキスト入力では、文字の大きさや色も、簡単に変わります。テストでの活用方法として、読みに困難がある場合、「プリントを撮影→読み上げさせる→紙に書く」、書きに困難がある場合、「プリントを撮影→回答欄にテキストあるいは手書き入力」とすることができます。詳しくは、



<http://iwalab.jp/research/touchandread/>

One Note (ワンノート)



Microsoft Office のアプリケーションの1つである OneNote では、文字を入力したい図形を描画したりできるほか、画像や音声、文書のファイルなどをまとめておくことができます。教科ごとに分類でき、さらに単元ごとの分類も可能です。このアプリひとつで全教科のノートをもとめることができます。



また、iPad、iPhoneでも使用することができます。こちらは、無料のアプリケーションになります。

詳しくは、

<http://www.onenote.com/>



スポーツを通して、力強く、心豊かに



●●● 体を動かして思いきり汗を流す。仲間と声をかけ合ってゴールを決める。勝った喜びを、負けた悔しさをみんなで分かち合う。みなさんもスポーツを通して様々なことを感じ、学んだ経験をおもちのことと思います。

本校高等部では7月に校内スポーツ大会を実施し、学年を超えてチームを組んでバスケットボール・フライングディスク・ポッチャに取り組みました。リーダーを中心に作戦を立てたり、声を掛け合ったりして徐々にチームがまとまっていき、互いのファイトを認め合う姿には確かな成長を感じます。10月には福島市で特別支援学校スポーツ大会が行われ、県内の特別支援学校高等部が一堂に介し、サッカー・ポッチャ・フライングディスク・陸上・バスケットボールで熱い戦いを繰り広げました。本校はサッカー・ポッチャ・フライングディスクに参加し、今年度はポッチャ団体が優勝、サッカーが準優勝、個人戦でも優秀な成績を収めることができました。夏の暑い時期からみんなで汗を流し、技術の向上に加えて最後まであきらめない力を身に付けてきた成果だと思えます。また、運動部は年間を通して活動しており、放課後に週2回程度の練習を通して目標をもって努力を続けることの大切さを学んでいます。また、対外試合も多く経験することで、初めての場所でも仲間を思いやりながら落ち着いて行動することができるようになってきています。

福島県では障がい者スポーツ協会主催のスポーツ教室なども行われています。スポーツに取り組む機会を積極的に利用し、仲間づくりや体力の向上、余暇活動の充実につなげていきたいですね。 (文責：宗像)



☆きらりちゃん日記☆



モヤモヤすることお悩みも他の人と一緒に考えると少しスッキリすることがあります。子どもたちだけでなく大人にとっても話をするって大切ですね。身近な人や相談機関にぜひ！(大竹)

本の紹介

今回は「働く」をテーマに選んだ3冊をご紹介します。

教育ジャーナリストとして不登校や発達障がいに関わってきた著者が、仕事を継続できなかった若者の実例を分析しながら教育や社会の課題を浮かび上がらせます。安定して仕事を続けるためには、「人とつながる力」を身に付けること、自分の特性を知ることが大切だという著者の言葉には説得力があります。(紹介者：大竹)



発達障がいの当事者11人の手記は、診断名が同じであってもその特性や抱える困難が異なることを改めて教えてくれます。人間関係を築く上でのマナーを身に付けることの必要性とともに、特性を理解した上での「ジョブマッチング」等、個々に合わせた就労支援を考えていくきっかけになる一冊です。(紹介者：深松)

社会の一員として働くことを願いながらも「他で働く場所がなかった」ために、同じ脊髄性筋委縮症を患う友人とともに起業する道を選んだ著者。決して甘くはないビジネスの世界で、時には障がいさえも武器にしながら、働くことや利益を上げることにこだわる姿勢には清々しささえ感じます。(紹介者：大場)

